

国土地理院の 防災業務と災害対応

国土地理院 沖縄支所

令和2年1月14日



Geospatial Information Authority of Japan

1

ハザードマップポータルサイト（その1）



ハザードマップポータルサイト
～身のまわりの災害リスクを調べる～

[使い方](#) [利用規約](#) [問い合わせ](#) [関連情報](#)

重ねるハザードマップ
～災害リスク情報などを地図に重ねて表示～

洪水・土砂災害・津波のリスク情報、道路防災情報、土地の特徴・成り立ちなどを地図や写真に自由に重ねて表示できます。

地図を見る

場所を入力

例：茨城県つくば市北郷1 / 国土地理院

表示する情報を選ぶ

洪水(想定最大規模)
洪水(計画規模)はこちら

土砂災害

津波

道路防災情報

※掲載データに関する留意事項

わがまちハザードマップ
～地域のハザードマップを入手する～

各市町村が作成したハザードマップへリンクします。地域ごとの様々な種類のハザードマップを閲覧できます。

地図で選ぶ

まちを選ぶ

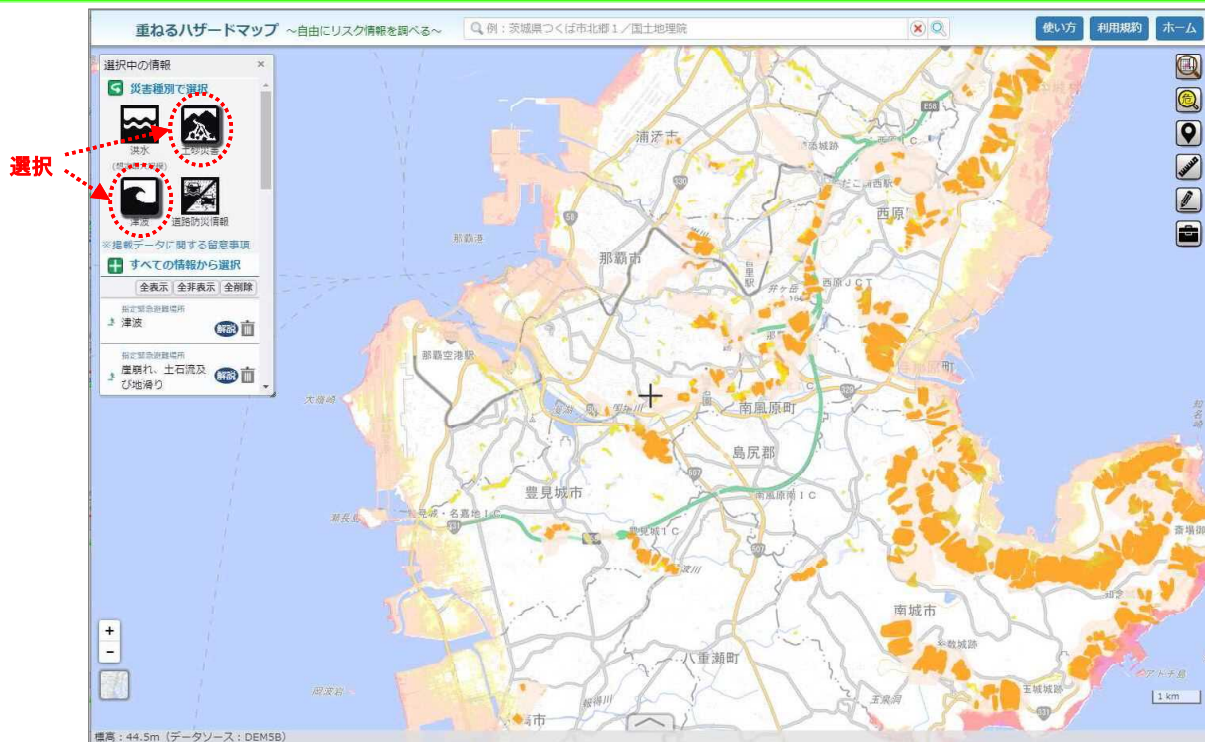
都道府県 市区町村



サイトへの
QRコード

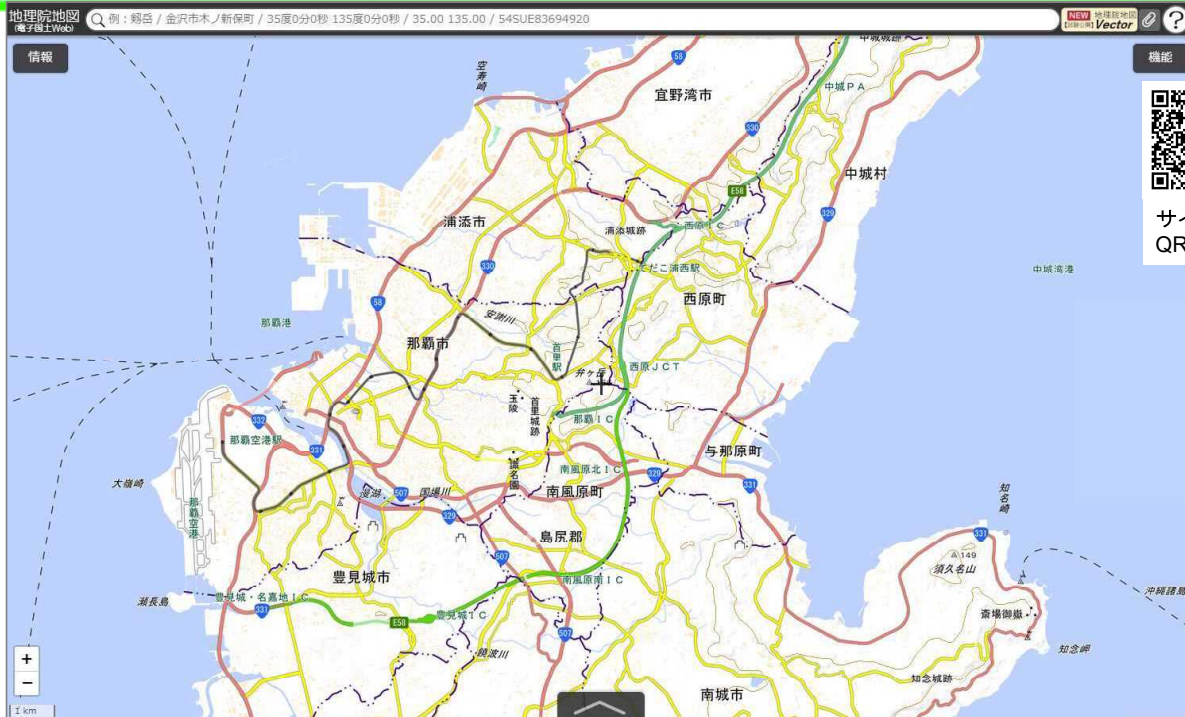
このサイトは、国土交通省のハザードマップポータルサイトです。
左側の「重ねる～」は、各市町村のハザードマップを地図上でシームレスに閲覧できるサイトです。
右側の「わがまち～」は、各市町村で公開しているハザードマップへリンクするサイトです。

2



このサイトは、那覇市を中心とした土砂災害と津波のハザードマップです。国管理河川の洪水ハザードマップは公開済みですが、県管理河川の洪水ハザードマップは公開に向けて整備中です。背景地図は、「地理院地図」のデータを使用しています。

地理院地図（Web地図）



地理院地図（Web地図）は、沖縄都市モレール延伸や国道開通の共用開始と同日に地図を更新・公開しています。昨年1年間に、モレール延伸、国道329号バイパス、県道や市道、大規模施設等を含む計18件を更新しました。各市町村が整備する各種ハザードマップの背景地図として利用可能です。

概要	
標名	津波被災地跡
災害名	津波 (1960年5月24日)
災害種別	津波
建立年	1995
所在地	佐賀県唐津市字真喜屋
伝承内容	新設36年(1960)5月24日正午、津波が起き大津波が発生。津波は、真喜屋の町が壊滅したが津波によって生じた被害が軽減された。地域での死者は5人。



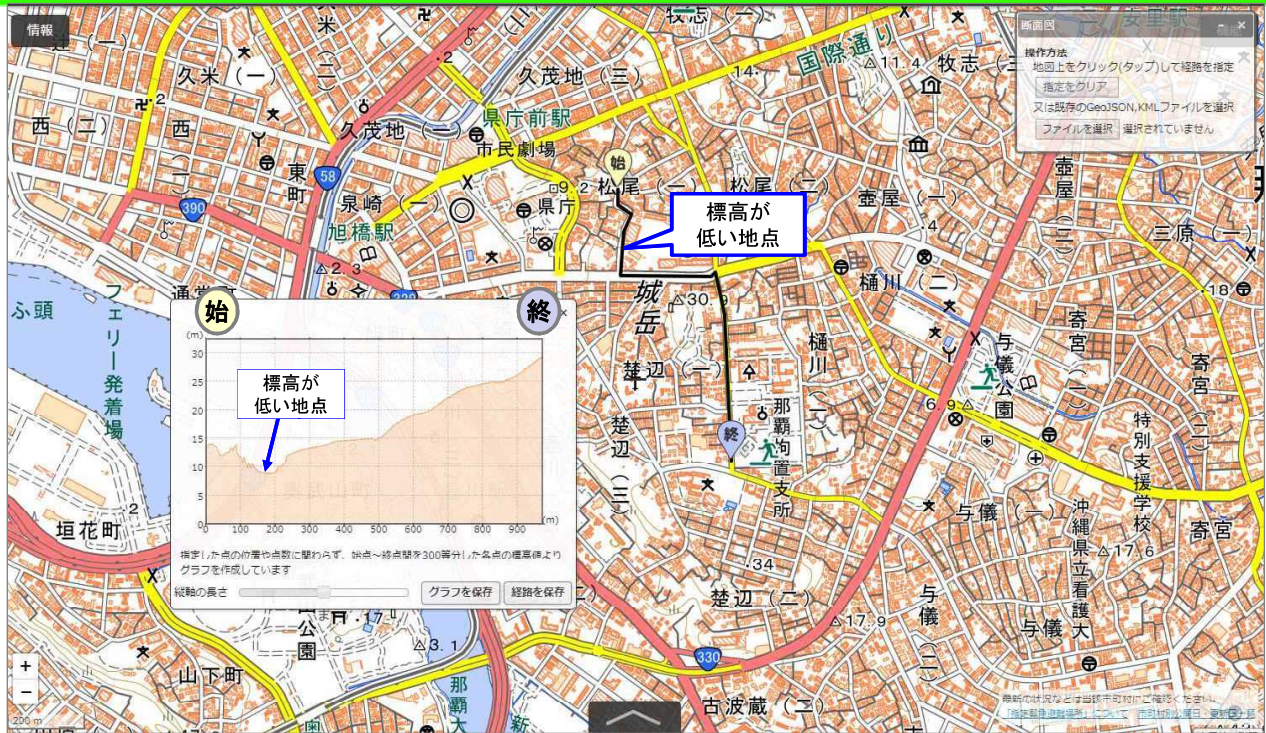
サイトへのQRコード

※表示例: 名護市字真喜屋の伝承碑(チリ地震の津波による)

- ・国土地理院では、昨年6月から全国を対象に、過去に発生した自然災害の教訓として残した石碑やモニュメントを地図上で公開しています。
- ・2019年12月5日現在で、44都道府県127市町村において392基を公開、沖縄県内では名護市3基及び石垣市2基の計5基の自然災害伝承碑を公開しています。

- 左側は、初期設定 (0~4,000m) による色別標高図です。
- 右側は、0から40mの標高範囲で、色と高さの区分を任意に設定した色別標高図です。
- 任意に設定することで、自分が知りたい地形の特徴を詳細に把握することができます。

地理院地図の機能 ～断面図～



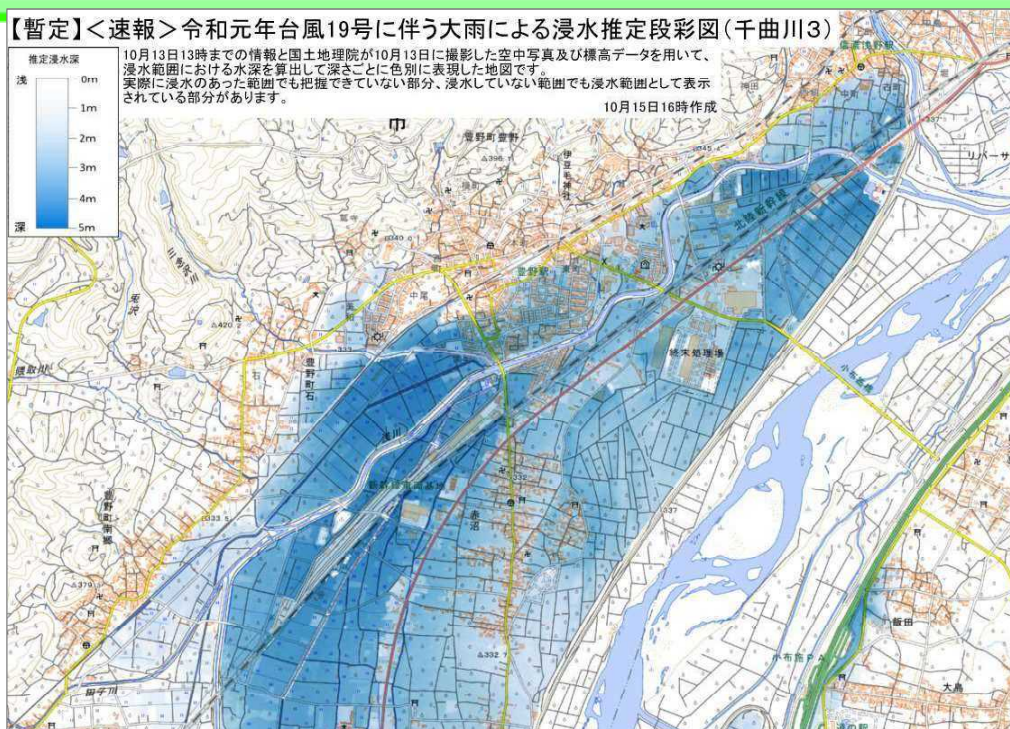
地理院地図の機能として、任意の2地点間経路の断面図を作成することができます。
 例えば、自宅から指定緊急避難場所までの断面図を作成することが可能です。
 この例では、避難経路が最短であるものの途中で標高が低い箇所があることが分かります。

災害対応 ～被災後の空中写真撮影～



国土地理院では、被災直後に飛行機で現地に向かい、空から写真を撮影します。図上の一つの青丸が一枚の空中写真を表しています。

この例は、昨年の台風19号で被害があった千曲川決壊箇所周辺を撮影したもので、決壊箇所のほかに浸水した新幹線車両も確認できます。



この地図は、前述の空中写真から判読した浸水箇所と標高データを使用して、浸水した範囲を色付けし、浸水深を色の濃淡で表したものです。

“推定”とすることで、実際の浸水箇所と整合しない箇所が一部あるものの、迅速な災害対応に活用できるよう早い段階で作成・公開しました。

問い合わせ先

国土地理院 沖縄支所 防災グループ

電話：098-855-2595

FAX：098-855-2596

メールアドレス（グループアドレス）：
gsi-bosai-ok@gxb.mlit.go.jp